

研修報告書No. 17

所 属：昭和大学藤が丘病院 研修医

地域医療研修では特に馴染みのない地域で研修をしてみたいと考え、1ヶ月間私は高知県で研修させて頂きました。失礼なことに、これまで地域医療というと医師が少なく電子カルテ等も導入が遅いのではないかと、各々の病院は独立していてあまり連携はないのではないかとというイメージを私は漠然と持っていました。しかし、私が研修させて頂いた病院では、他院と連携した電子カルテのシステムが構築されており、むしろ都市部の大学病院よりも業務の迅速化と地域の病院同士の連携といった点ではるかに先を行くのではないかと感じました。病院の先生方は医師になって10年以上のベテランばかりで、地域の医療関係者(看護師、薬剤師、技師、作業療法士、理学療法士等)の方々と勤務時間外も交流を持っており、私が知る関東圏の病院よりもどのスタッフも病院に対する帰属意識と愛着が強いように感じられました。

また、これもまた勉強不足な私の先入観ですが高知県では患者さんは高齢者が多く、その大部分は都市部と異なり多世代が同居しており、退院後は自宅に帰ることができる・家族が世話してくれる、という方が多いのではないかとというイメージがありました。しかし、高知県でも実際は核家族や高齢者のみの世帯は予想よりもはるかに多く、施設入所の検討や医療サービスの導入等、退院後の環境調整の重要性は都市部以上だと感じました。保健師の方々と話す機会も設けて頂いておりました。大変多忙な様子で、医療サービスや施設の需要がいかに多いか、またそもそも高齢者の方がそれらのサービスを知り、実際に利用するにも保健師を始めとする専門職の手助けを必要とするということが分かりました。

次に研修内容に関してですが、私の所属する研修病院では研修医が外来を任されることはありません。今回の地域医療研修中に、患者さんと最初に会い診察して治療を決定するといった過程まで全てまず一人で考えさせて頂くことができたのは大変良い経験になりました。また私が診察した際は心もとない表情をしていた患者さんが、常勤の先生がいらっしやっした途端に安心した表情になられたのは印象的で、その地域における先生方への信頼を垣間見ることができました。

また一泊と短い期間でしたが離島の診療所にも伺うことができました。医師が来島する日は限られており、様々な疾患の患者さんが受診されていました。医師が多い地域では専門科の細分化がすすんでいる印象がありますが、高知県、中でも特に島の診療所では専門分野以外にも対応できる総合診療的な能力が要求され、地域医療の特性を感じました。

上記の他にも様々な体験をさせて頂くことができ、今回の臨床研修では地域でこそ各職種、各病院の連携が重要であることを学ぶことができました。また患者さんの病気を治し、退院後も安心した生活を送って頂くには疾患を治す医学的知識や技術だけでは不十分で、多

職種のスタッフと連携して必要な環境調整を行う能力も医師には求められるのだと感じました。地域によって必要とされる医師像は多少異なると思いますが、私もまずは医学的知識を養う必要がありますが、医療サービスや福祉等、社会の仕組みにも関心をもってバランスのとれた医師を目指したいと思います。

今回ご指導頂いた病院の方々、地域の住民の方々、研修を計画して頂いた高知医療再生機構の方々、大変お世話になり、有難うございました。